



天井絵「龍」 横山大観画伯筆

# やくわえ

第四十号

## 第六十一回 神宮式年遷宮

### 総奉賛・総参宮を

#### 謹賀新年

昭和六十三年の年頭にあたり、  
 聖上の御病氣御全快を祈願し奉り、  
 御齡八十八の佳節を寿ぎ奉ります。

わが東京都神道青年会創立以来  
 今日まで、多くの困難を乗り越え  
 て、わが国体の護持に邁進してこ  
 られた先人の功績に改めて思いを  
 致し、深く感謝の意を捧げるとと  
 もに、明治維新百二十年、教育勅  
 語発布百年の佳年に際会し、われ  
 ら神明に奉仕する者がいよいよ一  
 致団結して、斯道の護持興隆に努  
 めるため、その決意を新たにす  
 るところでありませう。

今年第六十一回神宮式年遷宮  
 第三年目に入ります。御遷宮の奉  
 賛は神社界が総力を結集して行  
 う事業であり、この神機に臨み、募  
 財に尽力すると同時に御遷宮の意

義啓蒙にあたっては、今日の活力  
 を自負するわれら青年神主として  
 の力量を発揮し、千三百年の伝統  
 を誇る民族最高の御祭を完遂せし  
 めねばならないのであります。

現下の情勢は内外ともに激変し  
 つつあり、それが斯界多年懸案の  
 靖国神社の国家護持、歴史教育の  
 是正、国旗・国家の法的位置づけ  
 等の問題に影響してその解決に予  
 断を許さない状況にあります。

「神道指令」四十年を閲した今  
 日、わが国の真姿に未だ遠いもの  
 があります。会員各位には各自、  
 神明奉仕に一層精勵されまして、  
 本会活動に積極参加されるときも  
 に、神社庁教化事業遂行に協力さ  
 れ、以て伝統精神恢弘運動に益々  
 奮進されんことを切望します。

## 境内雑感

今年は紅葉が（東京当りでは褐葉の感覚）平年と比べて大分遅いように思われる。境内のいちようの木もやっと黄色くなって、ちらほら落葉し始めた。くぬぎの木も又しかり、けやきの木えのきの木はさすがにもう落葉し尽くしてしまった。これらの葉、枝に付いている時からして大変な数に見えるが、それが落ちると今更ながらにその量に驚かされる。掃き集めると境内のいたるところに落葉の山山。くぬぎの葉けやきの葉は燃やせば燃える。いちようの葉はなかなか燃えにくい。又、境内には落葉を燃やすような場所も無い。まったくこの季節と春先（常緑樹の葉が落ちる）は落葉の処理に困ってしまう。この落葉を利用する一つの方法として、一番良いのは元に戻してやる事だと思ふ。自然の森の樹木は、自分の落とした葉が腐りバクテリアに分解された物を養分として吸収している。それで落葉は全部植え込みの中へ撒いてしまっている。しいの木は葉くぬぎの葉けやきの葉等は比較的早

く腐葉土になってしまふが、ここでもいちようの葉はなかなか土にならない。がしかし一応落葉の処分は木々に返してやる事で何とか出来たと思ふ。

これからの季節にもうひとつ気になることがある。それは降雨が少なくなり境内が乾いてしまうことだ。幸水撒き用の井戸が有るかから水には不足は無いのだが、夏場にやはり境内が乾くのを防ぐために水を撒くのは勝手が違う。夏場は木々も水を必要とするし涼を得るために、植え込みの中までそれこそ二〜三時間かけて水を撒く。しかしこれからの季節は木々はそう水を吸い上げないし、かえって撒いた水のために根が凍りでもしたら元も子も無くしてしまう。だから土の部分に夏場と違ってあまり深く染み込まないように何回にも分けて水を撒かなければならぬ。井戸水なので水は暖かいが、いくら厚着をしていても北風の吹き荒ぶ日は立ったままの外での一時間程の水撒きはなかなか辛い。まあそのせいで境内の木々は樹勢が強いし良く繁っている（と自己満足している）のだから、あながち冬の水撒きも徒労に終わってい

る訳では無いのだと思っている。

境内には一年中水を撒かなくて済む場所が有る。そこは手水舎の排水を穴を開けた塩ビ管を地下に巡らせて染み込ませてある所だ。

四六時中流している手水をそのまま下水に排水してしまうのはもったいないのでそのようにしてある。

一体境内の木々にはどれ程の種類が有るのかと、以前区の「緑の係り」のお役人に診て頂いた事があった。一応プラスチックの名札を百枚用意しておいたのだが重複を含めて足りなかった。確か七十種類程有ったと思う。多いのはしいの木、いちようの木、くぬぎの木、もちの木。松の木は一本だけ。珍しい木と言え、とても古いしいの木が有る。もう幹は無く、うろになった皮の部分で生きているような木だ。それでも十年ぐらい前までは自力でたっていたが、あまりに側枝が（実際今ではこの側枝が主になっているのだが）大きくなつてバランスが崩れそうになつたので、今では隣のいちようの木を利用して十数箇所から吊っている。他にはあかがしの木、しらかしの木はよく見るがあかがしの木は少ない。しかも結構な樹齡

で、目通り直径二尺は有る。招魂の木も珍しいのではないだろうか、初夏に白いバナナの香りのする花を付ける櫛に似た常緑樹だ。この木は総代さんが本門寺の夜店で鉢植えを買って地植えにして育てたのを頂いたもので、移植は昨年六月。真木氏と石倉氏に手伝って頂いた。移植したら葉が全部おちてしまひやつとしたものだが、その後どんどん芽吹いて今では元気に育っている。又、つい最近珍しい木ではないのだがどうだんつづじ（満天皇と書くのですか？）の木を、御主人が亡くなられた後相続で土地を分割するため植えて置かれぬという氏子から頂いた。実はこの木は以前からその御主人との話題に上がった木で、樹齡が百年を越えていると言われ、亡くなられた御主人が幼い頃ちようど頃合いに延びた枝にまたがって遊んだといういわく付きのどうだんで、願ったりかなつたりと思いがする。

とにかく木の命のサイクルが人間とは違ふから氣長に考えることにしている。今大切にしておけば自分が死んでもまだまだずっと木々は残るのだから。（長谷川康夫）

# 禊 練 成 研 修 会

神青会恒例の禊練成研修会が、七月十六、十七日の二日間にわたり東京都地方研修所との共催により実施されました。

正午、青梅市御嶽山麻知家（服部宮司宅）に集合した参加者三十五名は、受付終了後、開講式にて河村之雄副所長から励ましのお言葉をいただき、さっそく禊行事に入った。今回は二日間とも天候に



恵まれ、道彦の八木光昭先生（王子神社宮司）、助彦の斎藤直孝先生（水稲荷神社宮司）のご指導により、すがすがしい禊となった。

なお、春田知男先生（牛嶋神社宮司）の『神社の強化活動一考』と題した講話を拝聴し、参加者にとって有意義な研修会であった。

## 研修終了者（敬称略）

◇千代田区―杉本浩行、中目公英、眞壁恵龍◇中央区―中川文隆、真木千明、佐草敏邦◇文京区―福田喜一、小田切浩、金親博◇渋谷区―今井泰三、寺井種治、永井康之◇中野区―小侯章◇杉並区―小侯宗昭、小侯文弘、斎藤明比古、老岐博嗣、藤本文彦、須田式恭、本橋宣彦◇大田区―北川憲史◇墨田区―春田知徳◇江東区―田村勝男、山口貴生、天海尉之◇葛飾区―森山晴男、鏡智明◇新宿区―大久保直倫、照井幸央、高橋儀一、山田尚史◇北区―八木敏夫◇板橋区―篠直嗣◇練馬区―奥野雅司◇荒川区―村瀬章一

## 参加者感想文

最近山状の話を聞く機会があり、神主として修行をしなければと思っております。私にとって、今回の禊は、まさに、好機でした。日頃サラリーマン神主になりたくないと思っても、気がつくことなく、低い所に甘んじているので、私が神主たるゆえんは何か、他の人と違う所は何かと自問しつつ、答えを出さずにはうやむやにしていました。それは、その答えが自分にとって都合が悪く、苦しい「行」への入口になるとうすうすわかっていたからです。

今、一つの決心がめばえつつあ

ります。それは、やはりやるしかない。ということですが。毎日やるといえばうそになります。しかし、自分の倦怠、俗悪化を感じた時は、いやそうなる前に、神主として禊で始めます。

御指導に当たられた諸先生、先輩に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（千代田区・眞壁 恵龍）

第二日		第一日	
五時半	起	十二時	合式明祭
六時半	御神	十一時半	講事説
八時半	神朝	一時	行始
九時半	社参	二時半	御神
十時半	神感	四時半	夕神
十一時半	終閉	六時半	講神
十二時半	直解	七時半	就
		九時	

今回の練成会は去年参加した時よりも、禊行法が少々きつく感じました。これは日頃の怠惰が原因と深く反省しております。

春田先生の講話は「教化」の話でしたが、「教化」という、難しく、かつ神職が避けて通れぬモノをこういう場で、たとえ時間が短かくても聞いて勉強する事は有意義だと思えます。講話の中で出された幾つかの事例はたとえ現在は無理でも近年中に実行したいと思えます。

（新宿区・大久保直倫）



春田先生の講話は「教化」の話でしたが、「教化」という、難しく、かつ神職が避けて通れぬモノをこういう場で、たとえ時間が短かくても聞いて勉強する事は有意義だと思えます。講話の中で出された幾つかの事例はたとえ現在は無理でも近年中に実行したいと思えます。

## アンケート結果

「やくわえ」第三十九号において、広報部がお願いしておりました、神青会員に対する「アンケート」が、去る七月二十九日に行なわれたソフトボール大会において実施されました。御協力ありがとうございました。

その集計ができましたので、ここに報告致します。まず全般を通して感じることは、中小企業の社長或いは、ちょっと繁盛している商店主あたりのレベルではないかと思えます。

問一の「あなたの休暇は何日位ですか」では、二、四日というのが四十二%であり、次の五、七日三十四%を引き離している。

又、問三の「あなたの趣味は何ですか」では、スポーツが三十六%、次いで無趣味、音楽、ゴルフとなっている。

問四の「スポーツをしていますか」では、していないの三十八%は別として、ゴルフ三十%、野球十四%、スキー八%という結果になっており、ゴルフ熱の高さを示している。

又問五の「よく遊びに行く場所は何処ですか」の問いには、一位

渋谷、二位六本木、三位新宿・赤坂、五位銀座、六位原宿、七位池袋、八位上野、九位その他となっております。これは自宅（自社）の近くで遊ぶ（飲みに行く）ということであろう。

次に私生活の面では、問六の「どのような家庭サービスをしていますか」で、外食四十%、日帰り旅行二十四%、宿泊旅行二十二%となり、問七の「それは何回位行きますか」で、一、五回四十八%、六、十回二十四%、十一、十九回十二%、二十回以上二%で、割と皆さん方は苦勞しているようである。宿泊旅行が以外と多いのは、皆さんが

まめなのか、或いは日程的に行きやすい立場であろうか分からない。冒頭に社長だとか商店主だとかオジン臭いことをいったが、わりと若者らしい面があるのは、問八・九で、「国内、国外で行ってみたい所は何処ですか」とあり、北海道二十八%、沖縄十六%、九州六%、小笠原六%、その他八%、欧州十二%、アメリカ十二%、豪州十%、ハワイ六%、中国・カナダ各四%、その他十二%となっている。

次に、神主さんの仕事であるとも一部氏子さんに誤解されている

お酒であるが、問十一に「あなたはお酒を飲みますか」では、もちろん飲む八十六%と圧倒的である。中には奇特にも飲まない十二%、飲めない二%という数字も出ている。付随した問いで「好きな飲み物と適量は」で、洋酒、日本酒、ビールとなり、量は一、二杯二十六%、五、六杯二十二%となり誤解されてもしたかたが十杯以上は二十%もいたのである。

又、タバコについては吸う六十八%、吸わない三十二%で、一日十本以下十二%、二十本位三十八%、三十本位十%、四十本以上のヘビースモーカーは六%の結果であった。

そして自己健康管理面では、年二回以上の検診十%、年一回三十八%、たまに十六%、しない三十六%であり案外と自己健康管理はしっかりしているようである。そして神青会で行う健康診断の参加については、二回参加二十二%、一回参加二十二%、そして参加しない人は何と五十六%もいた。これは我々神青会のPR不足の為であり、考えなくてはならない。

次に問十七の「起床時間」は、五時前十二%、六時前三十二%七時前二十八%、八時前二十%九時

前四%、とあり健康的な時間に大抵の人が起きるようであるが、昼前、四%というものぐさもいた。

そして、就寝時間は、十時前六%、十一時頃二十%、十二時頃五十%、一時頃十六%、朝方四%と大体は夜行性神職が多い。

問二十三のO・A機器使用については、ワープロ五十四%、パソコン十六%、コピー五十二%、FAX十六%と時代の先端を行く機器を社務に導入しているようである。

問二十四の「神道関係以外で何か役職をお持ちですか」については、PTA八%、RC・LC・JC八%、町会役員六%、民生委員二%、その他二%とあり地元の氏子さんに奉仕している神職さんもいる。

又、ユニークな回答、少数意見として、問二「休暇には何をしますか」のその他の回答中で内緒の旅行としたアブナイ神職さんや、問八の外国旅行について南極と回答した植村直己さんのような方もいらっしゃいました。

以上で大体の報告を終わりますが、皆様今後共神明奉仕に精進され、又神青会行事にご参加、ご協力をお願いしたいと思います。

(広報部・中島)

- ①休暇は、月平均何日
- ②休暇には何をしますか
- ③趣味は何ですか
- ④スポーツをしていますか
- ⑤よく遊びに行く場所は
- ⑥家族サービスの種類は
- ⑦家族サービスは年何回位
- ⑧国内で行ってみたい所は
- ⑨海外で行ってみたい所は
- ⑩海外へは何回行きましたか
- ⑪お酒を飲みますか
- ⑫好きなお酒の種類は(飲む人へ)
- ⑬たばこは吸いますか
- ⑭飲む人は1日何本位ですか
- ⑮定期検診は年何回
- ⑯神青の健康診断をうけましたか
- ⑰何時に起床しますか(正直に!)
- ⑱寝るのは何時ですか
- ⑲朝食は何を食べますか
- ⑳家族と夕食を共にするのは週何回
- ㉑テレビは1日何時間位見ますか
- ㉒好きな音楽は
- ㉓OA機器を使用していますか
- ㉔神社関係意外の役職は

2~4日42%	5~7日34%	0~1日14%	8日以上
家にいる52%		旅行する28%	ゴルフ他20%
スポーツ36%	なし30%	音楽20%	他14%
していない38%	ゴルフ30%	野球14%	テニス他18%
○渋谷28%	○六本木26%	○新宿・赤坂20%	○銀座18%
○原宿16%	○他32%		
夕食40%		日帰り旅行24%	宿泊旅行22%
他14%			
1~5回48%		6~10回24%	11~19回12%
他16%			
北海道28%		神輿16%	九州小笠原16%
他40%			
歌12%	米12%	茶10%	なし 他
0回 38%	3~5回22%	1~2回18%	6回以上18%
他4%			
飲む 86%		飲まない12%	
他2%			
ビール36%		洋酒29%	日本酒26%
他9%			
飲む68%		飲まない32%	
20本50%		10本16%	30本14%
40本8%		他12%	
1回38%		しない36%	
たまに15%		2回10%	
いいえ56%		2回 22%	1回 22%
6時前32%		7時前28%	8時前20%
5時前12%		他8%	
12時頃50%		11時頃20%	1時頃16%
他14%			
ごはん50%		パン23%	食べない24%
5~6日26%	1~2日24%	3~4日20%	毎日20%
他28%			
2時間34%		3時間34%	1時間18%
他14%			
歌謡曲30%		ニューミュージック 21%	ソフ・ロック 7%
クラシック 17%		他15%	
○ワープロ54%	○コピー52%	○パソコン16%	○ファクス16%
○PTA役員 8%	○JC/RC/LC 8%	○町会役員 6%	○民生委員他 4%

# 親睦ソフトボール大会

## 第二地区が連続優勝

第九会を迎える神青会親睦ソフトボール大会は、七月二十九日、三十度を越す炎天下の中、神宮外苑軟式野球場に於て開催された。正午八時半に集合した百名余りの参加者は、開会式、始球式に続いて試合開始、第一と第六地区と神社庁・明治記念館の合同チーム、計七チームで熱戦が繰り広げられた。

チームである第二地区(渋谷、中野、港、杉並)とこれまた前年の準優勝チームである第五地区(新宿、豊島、北、板橋、練馬、荒川)の決勝戦となり第二地区が二年連続の優勝を飾った。

試合終了後、三時から外苑スポーツマンクラブに於て表彰式と懇親会が行われ、汗と泥に塗れた参加者たちは、青年会特有のスポーツドリンクで乾いた喉を潤していた。



(上)選手宣誓(唐松会員)  
(右)始球式(高澤宮司)  
(下)熱戦風景



お知らせ

○神青協中央研修会

神道青年全国協議会主催による恒例の中央研修会が二月二十三・二十四日の二日間にわたり岐阜で開催されます。東京からも大勢参加しましょう。

○第三回皇居勤労奉仕

神青会の皇居勤労奉仕実行委員会（長谷川康夫実行委員長）では、三月十五日から四日間の日程で皇居勤労奉仕を実施します。白衣、白作業衣で、すがすがしい気持ちで御奉仕してみませんか。

○家族懇親スキー

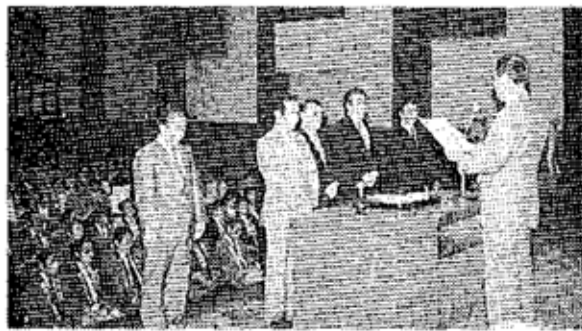
神青回事業部では、来る三月二十八・二十九日の両日、新潟県湯沢へのスキー旅行を計画しております。初めての企画ですが、楽しい旅行にしたいとおもいますので、御家族そろって御参加下さい。



活動状況

▽神社関係青年の集い△

七月十二日、東京都氏子青年協議会結成二十周年記念大会が都氏青協と神青会との共催により明治神宮参集殿にて催され、五百余名が参加した。



この大会では「各神社に氏子青年会を結成しよう」「二十年に一度の出会い御遷官に氏子

青年の力を」というスローガンを掲げ、三十三単位氏子青年会が中心となり広く都内各社の氏子青年に呼び掛けた。

式典では、協議会に尽くされた神青会歴代会長（写真）事務局長に感謝状が送られた。

大会終了後、宍戸鏡氏の記念講演、日吉ミミさんや新人歌手によるレセプションと続き、萩原会長

から有泉新会長にバトンタッチが行なわれ、都氏青協は新たなスタートを切った。

▽納涼家族懇親会△

夏真盛なる八月十三日、鮫洲に集合した一行四十八名は二隻の納涼船に分乗し、お台場沖にて天ぶらに舌鼓を打ち、ビンゴゲームと花火に歓声を上げ、今、人気のベイエリアをクルージングして和やかに楽しいひとときを過ごした。



（この部分の重複したテキストは省略）

▽健康診断△

十月十三日、東京都神社庁と神青会の共催による健康診断が神社庁にて行なわれ七十名が参加した。

今回で三回目を迎え、胸部レントゲン→超音波検査→採尿→一般計測→血圧→内科診察→心電図→採血→胃部レントゲンの順で検診が行なわれたが、前夜からの空腹

はバリウムでは満たされず、終了早々出前をとる会員の姿がとても健康的に見えた。

▽忘年旅行会△

十二月二十五・二十六日、箱根湯本の河鹿荘に於て神青会恒例の忘年旅行会が行なわれた。六時からの懇親会では会長挨拶の後、小泉元会長の挨拶、日暮先輩の乾杯と続き、参加三十三名は時を忘れて懇親を深めた。

〈編集後記〉

今上陛下御入院の報に、国民は衝撃を受けました。我等こそぞって大御体の御快癒を祈り上げ奉っているところでありませぬ。

昭和六十三年のことは戊辰。明治維新百二十年を迎えて、世は国際化時代。国際人となる第一は自国の伝統文化・精神の認識・体得から。（阿部）

昭和六十三年一月一日  
東京都神道青年会  
東京都港区元赤坂二―二―三  
東京都神社庁内  
電話 四〇四―六五二五代